

校務推進OJT導入の経緯

これまでの主な取組

- 経営支援部の設置と役割分担の明確化
- 校務のICT化
- 調査縮減 等

成果と課題

成果

- 経営支援部の設置校増加
(H24年度232校⇒H26年度434校)
- 校内組織と役割分担の見直し
- 校務のICT化の推進

課題

- 現在の校務改善の取組は経営支援部の設置など、**組織の整備が中心**
- 校務改善に対する**取組姿勢や意識の改革**

ハード面の整備

ソフト面の充実の必要性

実態調査（アンケート結果等）

校務改善全体に関する課題（6項目）

- 校務に関する理解不足・見通しの不足
- 業務の役割分担の不明確さ
- 教職員の校務に対する意識の低さ
- 旧態依然の組織をよとする雰囲気
- 先行事例、情報の不足
- 管理職のリーダーシップ発揮の課題 ⇒ ・ 管理職初年度の経験不足
・ 教職員への配慮

人材育成に関する校務推進OJTの課題（3項目）

- 教員の年齢構成比に起因する課題 (小) 年齢層の2極化
(中) 若手年代への先細り
- ミドルリーダーの不足若しくは不在
- 組織的に人材育成する環境が不十分

(校内ジョブローテーションモデルの必要性等)
これら課題に対する対応

校内ジョブローテーションモデル例

経験校数	教職年数	年齢	小学校のジョブローテーションモデル	中学校のジョブローテーションモデル		
1 校 目	1年目	23歳	できるだけ多くの学年の担任を経験 (全学年を経験させるのが理想) 2、3年のサイクルでジョブローテーションさせ、校務を経験させる(4~6種類は経験)	新規採用		
	2年目	24歳		基本的には副担任		
	3年目	25歳		クラブ・委員会担当 特別活動行事 避難訓練担当 ICT担当	中3担任で進路指導を経験(2回以上) (理想は持ち上がりで順序良い学年経験) 生徒会(副担当) 教務部、生活指導部をバランスよく経験	
	4年目	26歳		補教担当 時間割担当		運動会等の行事委員長を経験 職場全体への気配り 組織を動かす経験
	5年目	27歳				体育祭等の行事委員長を経験 教科主任を経験
	6年目	28歳		教科書担当 時間割行事 進路指導部 ICT担当		
2 校 目 以 降	7年目	29歳	2校目に入り、校務のサイクルは変わらないが、 主担当として、若手の指導	主任教諭 選考受験		
	8年目	30歳		学年主任を経験 特別活動主任や、場合によっては、 研究主任 や 生活指導主任を経験	生活指導部で 生徒会の主担当 を経験 主幹の配置によっては 生活指導主任 を経験 教務副主任 として、道徳、総合的な学習の時間の主担当を経験 学年主任 として学年行事を計画	
	9年目	31歳			4級職(主幹・指導教諭) 選考受験	教務主任・生活指導主任・進路指導主任のうちいくつかを、2~3年の周期で経験(学年主任を兼ねてもよいが、教務主任とは兼ねないようにする)
	10年目	32歳				
	11年目	33歳		教務主任・生活指導主任・研究主任のできれば全てを経験 (これまでに経験しなかったものを中心に) できれば 教務主任は必ず経験 周年行事や研究発表の委員長を機会があれば経験	教育管理職 B 選考受験	
	12年目	34歳				
	13年目	35歳				
	14年目	36歳				
	15年目	37歳				
	16年目	38歳				
	17年目	39歳				

今後の校務改善の推進

どのような人材に育てたいか
ビジョンを明確化

適切な校務経験と
校内ジョブローテーション

人材育成も視野に入れた
組織的な校務推進体制

校務を通じた人材育成

各分野において身に付けられる資質・能力

	基礎形成期	伸長期	充実期(主任教諭)	主幹教諭
小学校 中学校	教務部	○報告・連絡・相談	○必要な情報を集め、改善点を明らかにした提案	○学校の課題を管理職に問題提起
	生活指導部	○期日を守った仕事	○提案の前の事前協議	○他の分掌主任との調整、分掌の進捗管理
	研究・研修部	○以前の情報を基に提案文書を作成	○分掌の問題点と改善案の立案	○他の教員への指導・助言
	保健部	○組織の一員としての自覚		○管理職への意見・具申
	特別活動			○経営方針の周知徹底
	その他の部			○研究・研修の企画調整
				○OJTの実践と改善